

脱炭素×廃棄物WG

2026年2月17日

WG事務局：株式会社ライクス

脱炭素×廃棄物WGの活動について(1/20)

WG承認年月	2025年2月
参加団体・個人	※敬称略、50音順(2026年1月現在5名) ● ダイワハウス株式会社 ● 福島交通観光株式会社 ● 株式会社福島民報社 ● 株式会社ライクス ● 株式会社ライスレジン
活動経緯(概要)	● 2025年9月、第一回WGを実施。 ● 事務局にて活動内容及び福島県浜通り地域自治体のヒアリングを実施。 ● WGメンバーにて計画書をブレスト・作成。

脱炭素×廃棄物WGの活動について(2/20)

活動結果	【総括】 ● WG活動を通じて、廃棄物に関する企業間のネットワークを構築。 ● 参加企業に関する技術情報を整理。 【課題】 ● 廃棄物については、地域の情報・理解が不足しており、プレストを検討。 ● ヒアリング内容を基にWG参加各社の意見を集計し、再検討する必要。 【対応策(案)】 ● 実証事業については、各社の取組情報を収集し、ブラッシュアップを検討。 ● 実証事業資料を改訂し、地域の事業者・自治体へ再度提案。
今後の予定	【次年度(2026年度)の目標・方向性・将来像】※事務局案で可 ● 脱炭素×復興まちづくりプラットフォームやWGの枠組みを活用し、事務局としては、WGメンバーへの情報提供を継続する。脱炭素分野では、事業者の脱炭素技術を整理・共有し、廃棄物分野では、地域の環境整備分野に関する課題について、さらなる情報収集を実施。 【2030年度の目標・方向性・将来像】※事務局案で可 ● 脱炭素分野では、今後5年間で地域の廃棄物分野の課題解決策を検討し、脱炭素効果を試算する。廃棄物分野で脱炭素技術を有する企業間の連携を深化。 ● 廃棄物分野では、検討した解決策について自治体・事業者へヒアリングを実施し、マッチングや受け入れ可能性、地域課題との同時解決やコベネフィットの検討結果を取りまとめる。

脱炭素×廃棄物WGの活動について(3/20)

御中



【脱炭素×廃棄物WG】
廃棄物の資源化を主眼とした社会的課題解決事業
〈同時解決型施策〉計画（案）

2025.9

株式会社 ライクス

脱炭素×廃棄物WGの活動について(4/20)

廃棄物の資源化を主眼とした「社会的課題同時解決型施策」の基本的な方向性

〈基本的な方向性〉

廃棄物の資源化を通して、その他の社会的課題の解決に寄与する「同時解決型」施策の立案

- 社会的課題の解決に向けた廃棄物の資源化視点の事業立案
- 廃棄物の資源化に加え、相乗効果が見込まれる事業分野も見据えた「社会的課題同時解決型施策」を構築
- 面的志向の社会的課題解決による総体的なウェルビーイングの推進
- 同時解決型施策においては「実証事業」を組み込み、実施効果について検証・スパイラルアップし共通する社会的課題を抱える機関へロールアウト

〈実証事業を踏まえたマーケットイン型の施策構築と実施〉

廃棄物の資源化推進などと社会的課題解決を組み合わせた「同時解決型施策」に関する実証事業の実施・検証



脱炭素×廃棄物WGの活動について(5/20)

廃棄物の資源化を主眼とした「社会的課題同時解決型施策」の候補地

〈同時解決型施策候補地(案)〉

福島県浜通り地方を中心とする12市町村

【12市町村について】

○福島県浜通り地方を中心とする12市町村は、太平洋沿岸寄りに位置する、田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯舘村。

○2011年の震災と原発事故で甚大な被害を受けたが、現在は「創造的復興」の理念のもと、環境再生と復興まちづくりが進行中。

【候補地とする理由】

■被災地は復興に向けて、解決すべき社会的課題が山積している

震災による交流人口の減少をはじめ、産業復興・新規産業の創出・人口流出による高齢化の加速など、他地域と比較すると社会的課題の深刻度合いが高い。この地域で良好な結果を得ることができれば、熊本や能登などの被災地をはじめ、全国に向けて社会的課題の解決方法をロールアウトして、さらに良好な結果を得やすくなると推量される。

■福島再生・未来志向プロジェクトとのマッチングができる

環境省が実施している、除染や特定廃棄物の処理・中間貯蔵施設事業などの福島環境再生の取組や、環境の視点から地域の価値を創造・再発見する福島再生・未来志向プロジェクトを実施している。
※脱炭素、資源循環、自然共生などの環境施策

■国・研究機関・企業の技術的知見が集積されている

2011年3月11日発災の「東日本大震災」における被災地であり、原子力発電事故からの復興課題を抱える背景から、イノベ機構、F-REIなどをはじめ様々な研究機関・企業の知見が集積されているため、
脱炭素事業に連携しやすく、同時解決型施策の参画・実施効果の最大化を実現しやすい。



まとめ

■福島県浜通り地方を中心とする12市町村では、多岐にわたる社会的課題を抱えており、他地域よりも深刻度合いが高いものが多い(環境破壊・人口流出・産業衰退など。特に環境に対するダメージは深刻)。こうした課題に対して、「廃棄物の資源化」を主眼とした「同時解決型施策」施策は、環境施策推進を目指しながら、同時に、様々な社会的課題にもアプローチできる。その実証を進める上で、この地域が先駆となる可能性が高い。

■上記「同時解決型施策」を「福島モデル(環境施策の推進を基本としながら、同時に様々な社会的課題も解決し、ウェルビーイングを獲得していく施策モデル)」としてロールアウトすることで、復興までの活動に対する共感を得やすく、また、世界からの注目度も高くなると考えられる。

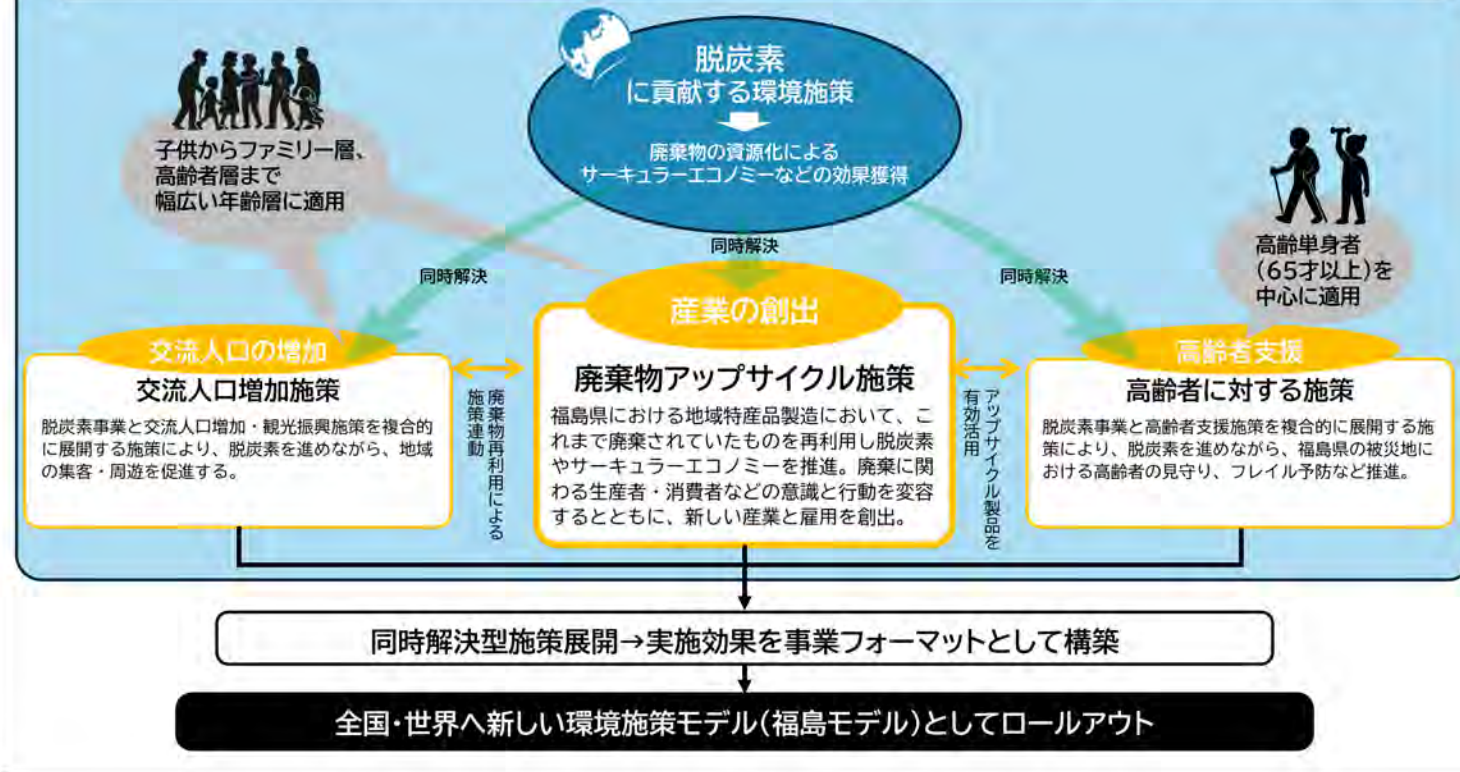
脱炭素×廃棄物WGの活動について(6/20)

廃棄物の資源化を主眼とした「社会的課題同時解決型施策」の全体像

〈施策全体像〉

- 脱炭素推進をマストとして、3つの社会的課題解決に寄与する計画を考案。
- 全国の自治体において共通で抱えていると思われる社会的課題を「交流人口増加」「産業の創出」「高齢者問題」に絞って脱炭素と組み合わせ、同時解決型の施策化。
- 自治体における課題解決を複数同時に進めることで、点在している社会問題を点ではなく、面的に同時に解決する手法を模索。

環境施策を推進することによりその他の社会的課題の解決も達成し、ウェルビーイングが推進されるロールモデル(福島モデル)として形成



脱炭素×廃棄物WGの活動について(7/20)



社会的課題同時解決型施策(福島モデル)A案

社会的課題同時解決型施策(福島モデル)A案

交流人口の増加！

脱炭素×復興・交流人口増加施策

脱炭素施策と交流人口増加・観光振興施策を複合的に展開する施策により、福島県に対する来県トライアルを促進。交流人口を増やしながら復興と震災風化防止をゴールとして展開。

脱炭素×廃棄物WGの活動について(8/20)

社会的課題同時解決型施策(福島モデル)A案 施策概要

〈施策概要〉

自転車で走れば走るほど、復興が進み、地球もきれいになる！

サイクリーニング

Cyclecleaningプロジェクト

サイクリングが熱いふくしまを舞台に、走るほどにふくしまも地球も元気になれる、新たな「CO₂排出量低減・環境美化施策モデル」

- 福島県は、東北地方初となるNCR〈ナショナル サイクル ルート〉の令和7年度の登録を目指し活動している。名称は「浜通りサイクルルート」で、現地では官民をあげて案内看板の設置や休憩施設の案内、サイクルステーションや宿泊施設などの整備が進んでいる。
- 令和6年には、ふくしまプレデスティネーションキャンペーンの開催に合わせ「常磐線浜通りサイクルトレイン(自転車をそのまま列車内に持ち込むことができる)」の試験運行が常磐線いわきー原ノ町駅間で実施されるなど、サイクリストにとって浜通りがよりアクセスしやすくなる可能性を広げている。
- 本企画は、こうした機運に乗り、サイクリングをしながら廃棄物(空き缶やポイ捨てゴミ)の回収を通して、CO₂排出量低減・環境美化、地域の復興・交流人口増加を進めるとともに、サーキュラーエコノミー推進にも貢献していく新たな「CO₂排出量低減・環境美化施策モデル」の構築を企図している。また、回収した廃棄物のうち空き缶は回収後インゴッドとして再生・売買し、その収益を福島復興に寄付(チャリティー)するフローも盛り込む。
- 「化石燃料を使用しない自転車」は、脱炭素を推進するツールとしても強力なプレゼンスがあるため、環境施策を推進できるものとする。

参考 環境課題として、空き缶やペットボトルなどのポイ捨てがあり、サイクリング先進地の「しまなみ海道」でもその問題が一般から指摘されている。

〈施策概念図〉

サイクリング×廃棄物回収×チャリティー！



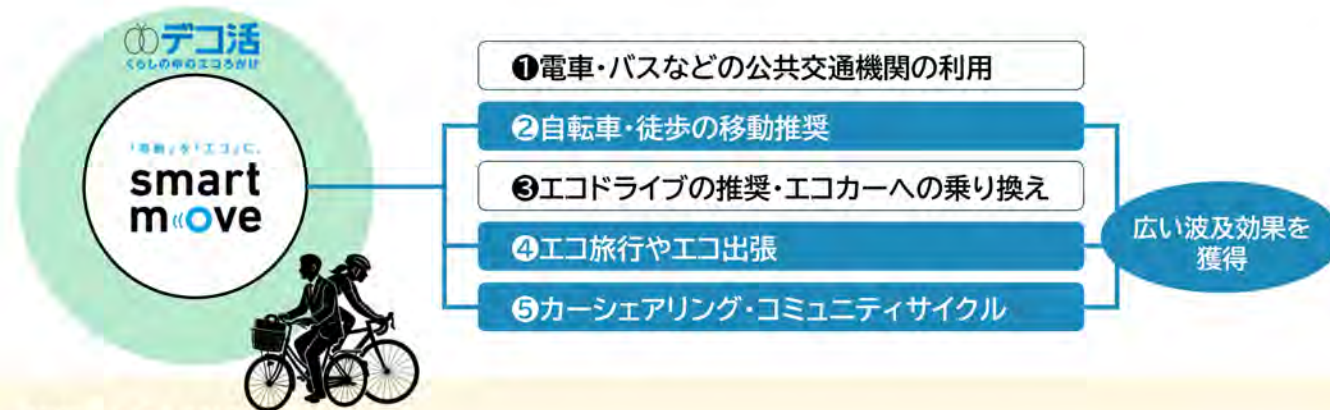
写真 <https://better-bicycles.com/news-topics/0828/>

脱炭素×廃棄物WGの活動について(9/20)

社会的課題同時解決型施策(福島モデル)A案 施策に自転車を用いる背景と波及効果への期待

〈施策に自転車を用いる背景と波及効果への期待〉
CO₂排出量を抑える(または全く排出しない)ための
SMART MOVEによるデコ活が推進されている。

- 5つの取り組みで構成・推進されている「SMART MOVE」のうち、直接自転車に関わる「②自転車・徒歩の移動推奨」「⑤コミュニティサイクル」の他、自転車での旅も想定できる「③エコ旅行」とのマッチングが期待できる(自転車によって波及させることができる裾野が広い)。
- 今回ご提案する「Cyclecleaning プロジェクト」を展開し、自転車と環境保護との親和性の高さと効果について再認識することで行動意識の変容が期待でき、普段の通勤・買い物などの近距離移動を自転車に変え、デコ活の成果に集約していくことが期待できる。



〈他にも自転車には…

- 自転車は自動車などのモビリティに比べ、製造時のCO₂排出量が少なく環境負荷を格段に低くすることが期待できる。

※自転車の車両・走行起源CO₂排出量は乗用車の1~2割程度と非常に小さく、SyLC-CO₂でも乗用車・LRTに比べて優位にある
(名古屋大学「自転車・LRT・乗用車のライフサイクルCO₂排出量比較」より)

- 自転車は自然やまちとダイレクトに触れ合える乗り物なので、環境保全意識の高揚が期待できる。

- 自転車は、ファミリーでも楽しめるモビリティであり、高齢者にとって健康づくりの手段としても認識されているため、より広い層に対しての啓発が期待できる。

などの利点がある〉

脱炭素×廃棄物WGの活動について(10/20)

社会的課題同時解決型施策(福島モデル)A案 福島県版 施策展開案

〈福島県版 施策展開案〉

サイクリーニング

ふくしまCyclecleaningプロジェクト

1 展開ルート／浜通りサイクルルート



- 浜通り12市町村をすべて網羅したサイクルルートで、山海を楽しみながらライドできるコース。
- NCR(ナショナルサイクルルート)への登録準備も進められており、登録されれば東北地方初となる。現地では案内看板の設置や休憩施設の案内、サイクルステーションや宿泊施設などの整備が進んでいる。
- 令和6年には、ふくしまプレデスティネーションキャンペーンの開催に合わせ「常磐線浜通りサイクルトレイン(自転車をもそのまま列車内に持ち込むことができる)」の試験運行が常磐線いわきー原ノ町駅間で実施されるなど、サイクリストにとって浜通りがよりアクセスしやすくなる可能性を広げている。
- ルートの特徴は、すばらしい自然景観の中を駆け抜けることができるだけでなく、東日本大震災の傷跡と復興を感じながら、未来に息づく確かな希望や創生に取り組む方々からの学びを得る「ホープツーリズム」にもある。



脱炭素×廃棄物WGの活動について(11/20)

社会的課題同時解決型施策(福島モデル)A案 福島県版 施策展開案

〈福島県版 施策展開案〉

サイクリーニング

ふくしまCyclecleaningプロジェクト

2 プロジェクト参加・地域貢献フロー(エントリーから空き缶回収まで)

プロジェクトへのエントリーは簡単です。
サイクルステーションに立ち寄り、専用のサコッシュと手袋を受け取るだけ。
そこから、サイクリストの心を満たす地域と地球への貢献活動が始まります!

①エントリー

サイクルステーションで専用の
サコッシュと手袋を受け取る

- バイオマスプラスチックの「サコッシュ(空き缶が1缶入るサイズ)」と手袋を参加者に手渡す。
- サイクルステーションスタッフは、サイクリストに対して、参加案内を行います

脱炭素

バイオマスプラスチックは、製品になった段階で、カーボンニュートラルを達成していますので、脱炭素推進に適した素材です。

サコッシュには復興や環境に関する広報メッセージを!



②走る・拾う

サイクリングを楽しみながら、
廃棄物(空き缶やゴミ)を拾う

- サイクリングに出発。サイクリングの途中で目に付いた空き缶やゴミを手袋をはめた手で拾い、エントリー時に受け取ったサコッシュに入れる。
- 拾っていただく空き缶は、過剰に成果を求めず、空き缶1人1本目安(ごみも1つ)とすることで、心理的なハードルを下げる。



③回収する

サイクルステーションに
拾った廃棄物を持ち込む

- コース上に設置されているサイクルステーションは60カ所! 自分のゴールに近いサイクルステーションに廃棄物を持ち込んでいただく。※ごみ箱は、各施設と協議。回収は地元のリサイクルカーへの依頼を想定(福島県産資協の指導のもと決定)
- 参加証のステッカーを受け取り、終了。またはサイクリング終了後に、自主的にクリーン活動をしていただいて拾ったごみも持ち込み可。

次の
ページに
続きます

宿泊施設なども含めた
60カ所が
サイクルステーション
として機能!



脱炭素×廃棄物WGの活動について(12/20)

社会的課題同時解決型施策(福島モデル)A案 福島県版 施策展開案

〈福島県版 施策展開案〉

サイクリーニング

ふくしまCycleaningプロジェクト

3 プロジェクト参加・地域貢献フロー(回収した空き缶の管理から寄付まで)

回収された空き缶は、各サイクルステーションからの報告により、定期的に数値化。
空き缶の売却益を福島県の復興のために寄付します。
これが、走れば走るほど、廃棄物利活用を推進しながら
ふくしまも地球も元気になる「ふくしまCycleaningプロジェクト」です！

④管理する

回収された空き缶やゴミを
見える化する

- 事務局にて管理する仕組みを形成し、専任の事務局員が関係者と連携して運営。
- 回収された廃棄物は事務局が計測し、数量を専用サイトで見える化する。
- 参加したサイクリストは、いつでも、どこでも実績数量を確認できるため、参加後の満足感を高めることにつながる。

専用ウェブサイト・
情報プラットフォーム・
SNSでいつでも確認！



⑤再資源化(売却)する

空き缶をリサイクラーへ
売却する

- ①サイクリストが売却益を寄付
- ②リサイクラーが売却益の一部を寄付という2つの寄付形態(①あるいは両方)を想定。
- 売却益も、専用サイトで公開し、サイクリストの参加後の満足感と納得感をさらに高める。その他のごみは可燃ごみとしてサーマルリサイクルに。

サーキュラー
エコノミーの推進

地元の
リサイクラー



⑥寄付する(チャリティー)

売却益を
福島県に寄付する

- 空き缶の売却益は、福島県の復興に紐づけて寄付する。
- 寄付した金額、専用サイトで公開し、サイクリストの参加後の満足感と納得感をさらに高める。

復興推進
震災の風化防止



サイクリストの貢献体験をずっと可視化して、満足感を持続させ、廃棄物の利活用も推進する仕組み
(リピートへのモチベーション獲得→持続可能な仕組みを形成)

脱炭素×廃棄物WGの活動について(13/20)



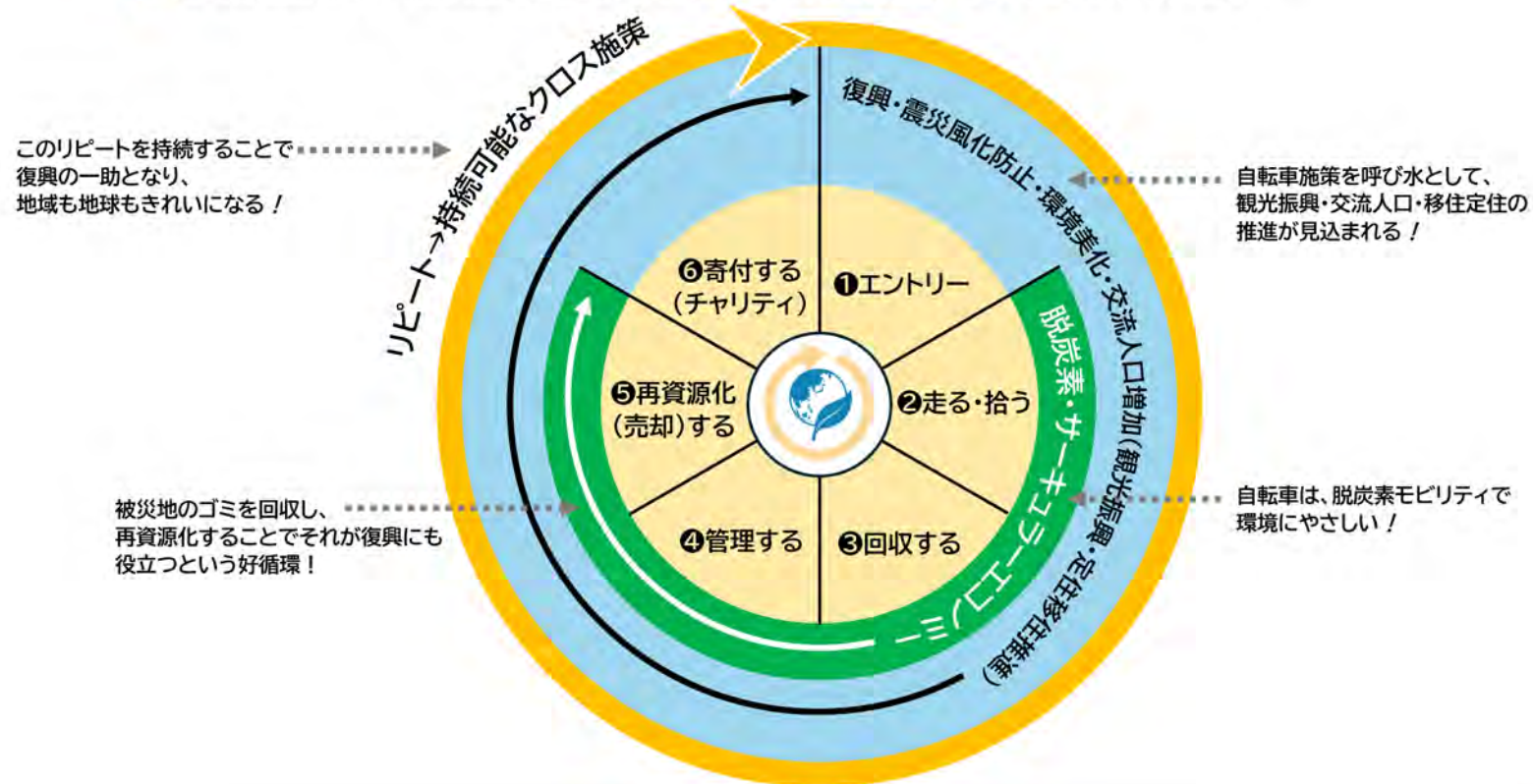
社会的課題同時解決型施策(福島モデル)A案 福島県版 施策展開案まとめ

〈福島県版 施策展開案まとめ〉

サイクリーニング

ふくしまCyclecleaningプロジェクト

- エントリーから寄付までのフローを通して、それぞれのフェーズには、脱炭素・サーキュラーエコノミーに加え、福島県の大震災からの復興・震災風化防止をはじめ、環境美化・交流人口増加に対する効果を想定。
- 一過性の施策にならず、持続可能な施策にブラッシュアップしていくことで、全国へのロールアウトを推進。



脱炭素×廃棄物WGの活動について(14/20)



社会的課題同時解決型施策(福島モデル)B案

社会的課題同時解決型施策(福島モデル)B案

意識と行動を変える！ 産業を創出する！

脱炭素×廃棄物の利活用施策

福島県における地域特産品製造において、これまで廃棄されていたものを再利用し脱炭素やサーキュラーエコノミーを推進。廃棄に関わる生産者・消費者などの意識と行動を変容。

脱炭素×廃棄物WGの活動について(15/20)

社会的課題同時解決型施策(福島モデル)B案 施策概要

〈施策概要〉

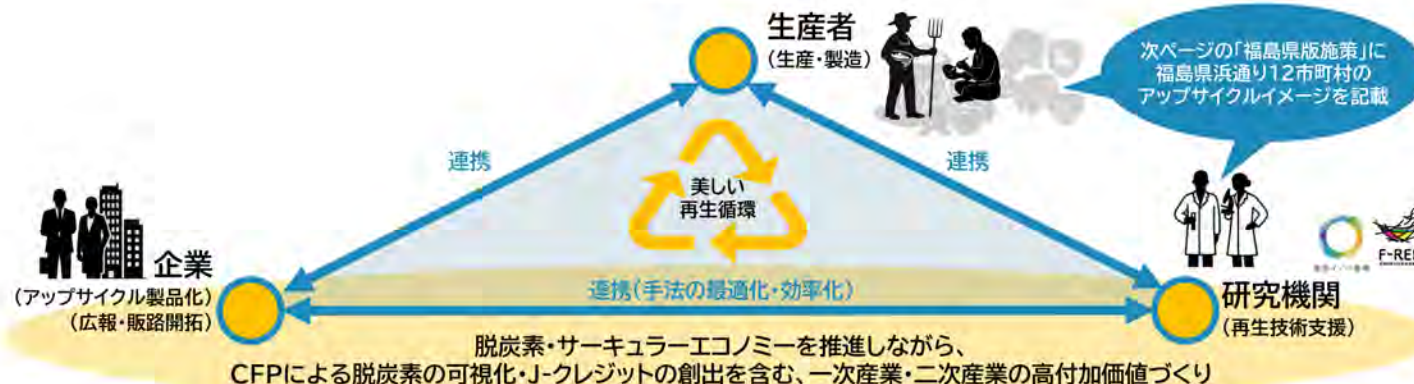
特産品・工芸品の製造工程で生まれる廃棄物の再生・再利用の最適解を探す!

「恵み彩生」プロジェクト

大地が育んだ恵みを余さず生かして、社会に循環させる。

- 未解決(または未発見)の廃棄物資源化に取り組んでいる企業とWGが緊密に連携して展開する。
- 本企画では、こうした農産物や伝統工芸の分野において、従来は廃棄されていた野菜くずや工芸品の廃材に光を当て再生・アップサイクルすることで、一次産業・二次産業の付加価値を高める。
- 「恵み彩生」プロジェクトは、事業プロセスを通して「脱炭素やサーキュラーエコノミー」を推進し、ステークホルダーと社会を「美しい再生循環」で彩っていくことを目的とした「社会的課題同時解決型施策」として展開。J-クレジットやカーボンフットプリントとも紐づけながら、成果を対価にできる(あるいは可視化できる)循環型社会の深化を企図する。

〈施策概念図〉



脱炭素×廃棄物WGの活動について(16/20)

社会的課題同時解決型施策(福島モデル)B案 福島県版 施策展開案

〈福島県版 施策展開案〉

ふくしま「恵み彩生」プロジェクト

- 福島県内で生産・製造される特産品の製造プロセスで生じる廃棄物の再生・アップサイクルプロセスについて、生産(製造)者・技術支援機関・企業が連携し、「捨てる」という観念を捨てる「新しい再生循環」の構築を目指す。
- 下記、福島県内でアップサイクルされた製品の一例のように、本企画においては、こうした実績ある企業との連携により、新たな製品の創出を図る。



- ① 麦芽粕を使った特製グラノーラ
(写真 <https://prt-times.jp/main/html/rd/p/000000010.000098504.html>)
- ② 廃棄される「柿の皮」を原料にした、女性のためのケア商品『明日 わたしは明日柿の木にのぼる』
(写真 <https://ashita-kaki.com/>)
- ③ 猪苗代湖の水質汚染の一因となっている水草『菱(ひし)』の種を活用し、商品化したお茶『ひし茶』
(写真 <https://inabishi.co.jp/>)
- ④ 剪定された桃の木から生まれ商品『福咲和紙』
(写真 <https://www.news-r.jp/news/disp.html?id=17717>)
- ⑤ 印刷工程で発生する断裁した紙くずを原料の一部とした緩衝剤

●下記は、12市町村の特産から想定したアップサイクルイメージです。



市町村名	廃棄物	想定用途(アップサイクル)
田村市	けやき製品の端材	PPと混合した新しい建材
南相馬市	陶器ごみ	粉碎・成型して日用品
浪江町		
川俣町	絹繊維くず	手すき和紙
広野町	バナナの皮・茎	繊維→タオルなど
檜葉町	ゆず製品製造時の廃棄される果皮	エタノール抽出による化粧品や医薬品
富岡町	散り落ちた桜の花・間引いた桜の枝	花木を大きく育てる肥料
川内村	ぶどうの皮・種	バイオ燃料・美容・染色
大熊町	周辺市町村の農業残渣や工芸品の端材など	だるま伝統工芸品の双葉だるまや新しい物産品
双葉町		
葛尾村	しみ豆腐製造時のおから	健康食品・サプリ・飼料
飯館村	どぶろく製造時の酒粕	化粧品・体質改善サプリ

※記載したのはイメージであり、実現性を加味したものではありません。

脱炭素×廃棄物WGの活動について(17/20)



社会的課題同時解決型施策(福島モデル)C案

社会的課題同時解決型施策C案

高齢者支援！

脱炭素×高齢者みまもり施策

脱炭素施策と高齢者支援施策を複合的に展開する施策により、脱炭素を進めながら、福島県の被災地における高齢者の見守りや、フレイル予防なども推進。

脱炭素×廃棄物WGの活動について(18/20)

社会的課題同時解決型施策(福島モデル)C案 施策概要

〈施策概要〉

脱炭素に貢献する「廃棄物再利用製品」で高齢者を見守り、高齢者の身を守る！

「みまもり袋」プロジェクト

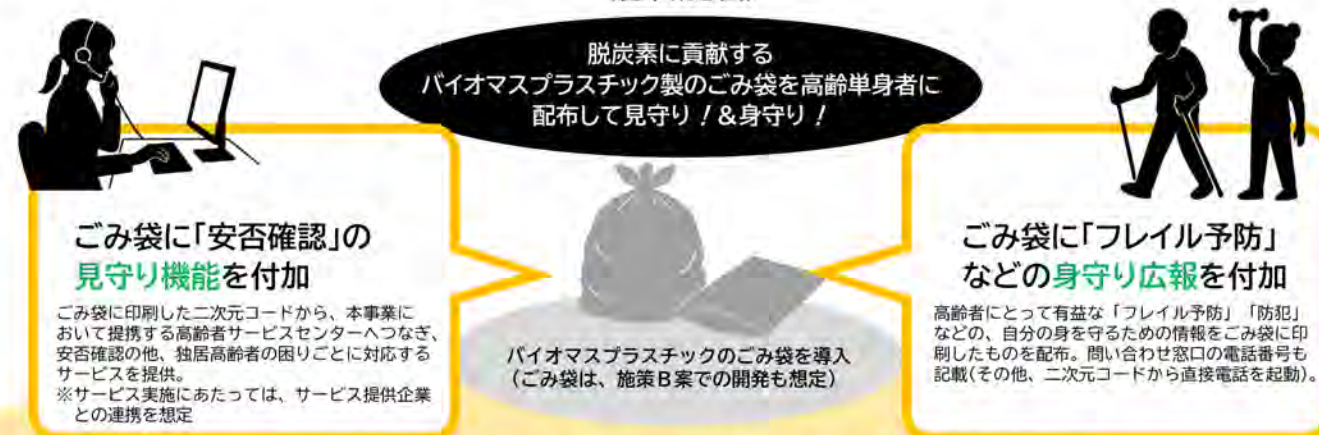
高齢単身者の生活の中にリーチできる「ごみ袋」を起点として、高齢者に寄り添ったクロス施策を展開

- 日本国全体の傾向として、高齢化が顕著であり、福島県においても、高齢者の孤独死、認知症患者数の上昇、高齢者ドライバーによる交通事故の深刻化、高齢者を対象とした犯罪の増加が行政課題となっていると推察。
- 本企画は、こうした現状に鑑み、脱炭素に貢献するバイオプラスチックのごみ袋を起点として、脱炭素や廃棄物の資源化を推進しながら、人口減少とコミュニティの過疎化によりもたらされる高齢者の心身の衰え(孤独やフレイルなど)を防止することを目的として展開する社会的課題同時解決型施策。

参考：
被災地の高齢化

福島県が作成した資料「ふくしまの復興・再生にむけて(2025年6月13日発行)」においては、「原子力災害が続く中、避難地域12市町村では依然として帰還が進まず、震災前と比べて大幅な人口減少・高齢化といった課題に直面しており、既に帰還を遂げた住民の生活環境はもとより帰還・移住の促進に向けた環境整備をこれまで以上に強力に進めることが不可欠」と分析されてる。

〈施策概念図〉



脱炭素を推進しながら、高齢者に関する社会問題に関する解を提供

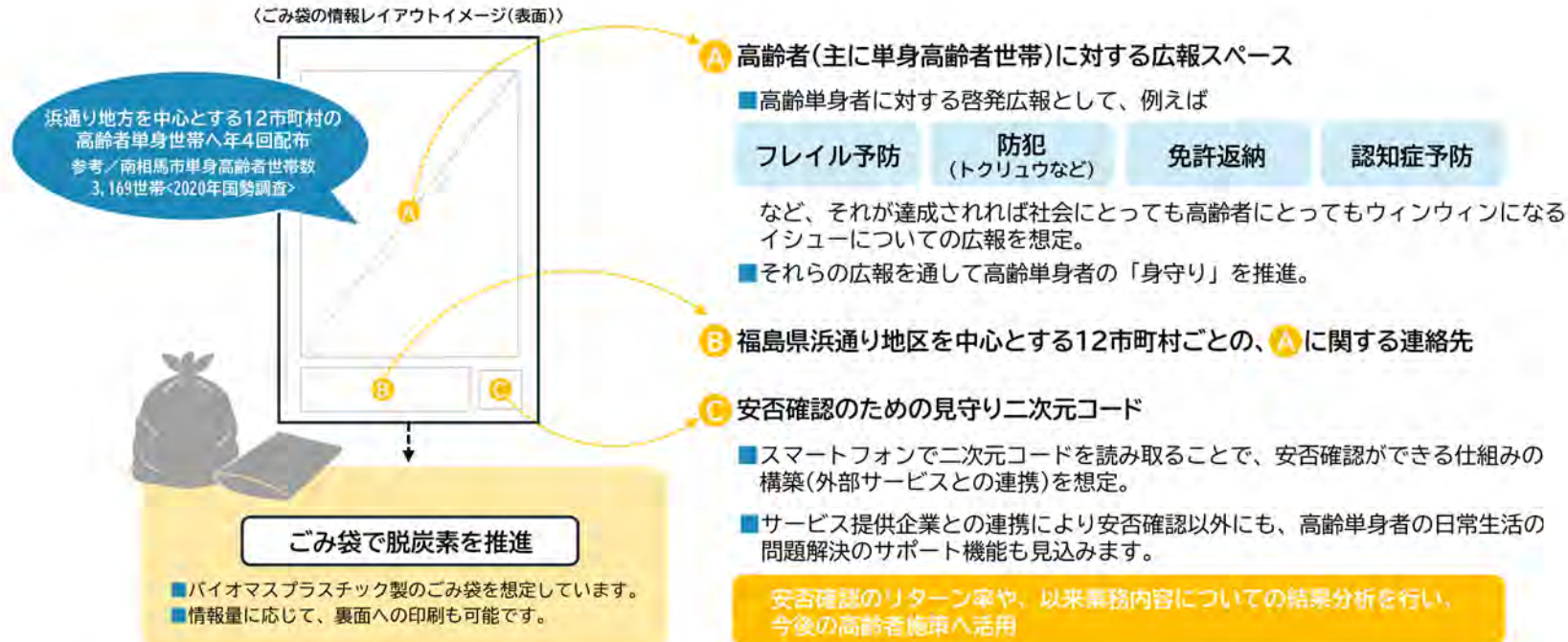
脱炭素×廃棄物WGの活動について(19/20)

社会的課題同時解決型施策(福島モデル)C案 福島県版 施策展開案

〈施策展開案〉

ふくしま「みまもり袋」プロジェクト

- ごみ袋は、福島県浜通り地方を中心とする12市町村の高齢者単身世帯を中心に配布することを想定。
- 高齢単身者がこのごみ袋をごみ収集所に出すこと自体が、近所(町内会)で単身高齢者世帯を見守る(ごみ袋が出ているということは、暮らすことができているということ。それを複数人で確認できる)ことにつながるため、「見守り」機能は効力を発揮できると考えられる。
- 家庭内に入り込み必ず目にする日用品に広報媒体機能および、見守りの起点機能を付加することで、効果的で実効性の高い施策運営を目指す。



脱炭素×廃棄物WGの活動について(20/20)

具体施策案「社会的課題同時解決型施策」A～C案 ロードマップ及びステークホルダー

〈同時展開型施策A～C ロードマップ・ステークホルダー〉

